

# 人口減少が進む中で考えられる未来予測

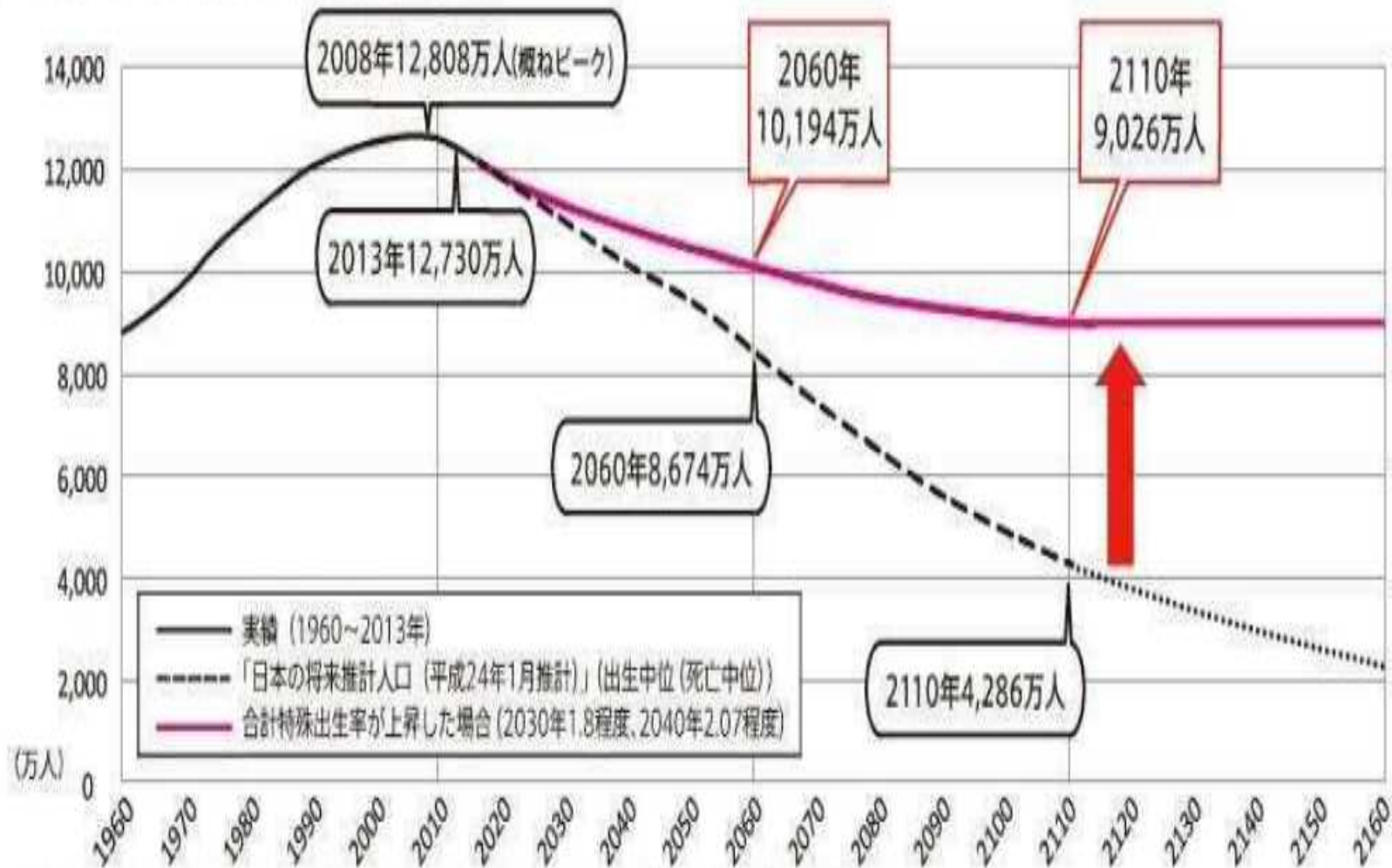
平成30年12月3日

第1回三木市総合計画策定審議会資料  
総合政策部企画政策課

# 1 人口減少社会の到来（日本）

日本の人口は平成20(2008)年から減少局面に入り、今後加速度的に進むと見込まれています。その推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の発表では、日本の総人口がこのまま推移すると、ピーク時の1億2,808万人から、平成72(2060)年には8,674万人にまで落ち込むと推計しています。

## 我が国の人口の推移と長期的な見通し



## 2 人口減少が進む中で考えられる未来予測（イメージ）

(参考) 平成27 (2015) 年

年少人口 (0~14歳) 1,595万人

生産年齢人口 (15~64歳) 7,728万人

老年人口 (65歳以上) 3,387万人

・働き手2.3人で高齢者1人を支える

・働き手4.8人で年少者1人を支える

(注) 働き手・・・生産年齢人口、  
高齢者・・・高齢人口、年少者・・・年少人口

2020年

- ・働き手2人で高齢者1人を支える
- ・働き手4.9人で年少者1人を支える

2025年

- ・育児と介護のダブルケア
- ・団塊世代が75歳以上になる

2040年

- ・死亡者増加に伴う火葬場不足
- ・団塊Jr世代が65歳以上になる

2056年

- ・年少人口が1,000万人を割る

1.25億人

1億人

0.9億人

【政治・社会・経済・産業予測】

2020年 年間訪日外国人旅行者数4,000万人

自動運転車実用化 (国交省)

2025年 介護人材が37.7万人不足 (厚労省)

2030年 人工知能 (AI) やロボットによる効率化

2040年 年間死亡者数約168万人

2045年 リニア中央新幹線 (名古屋大阪間開通)

2055年 世界の人口が100億人に到達

2008年

2020年

2030年

2040年

2050年

2060年

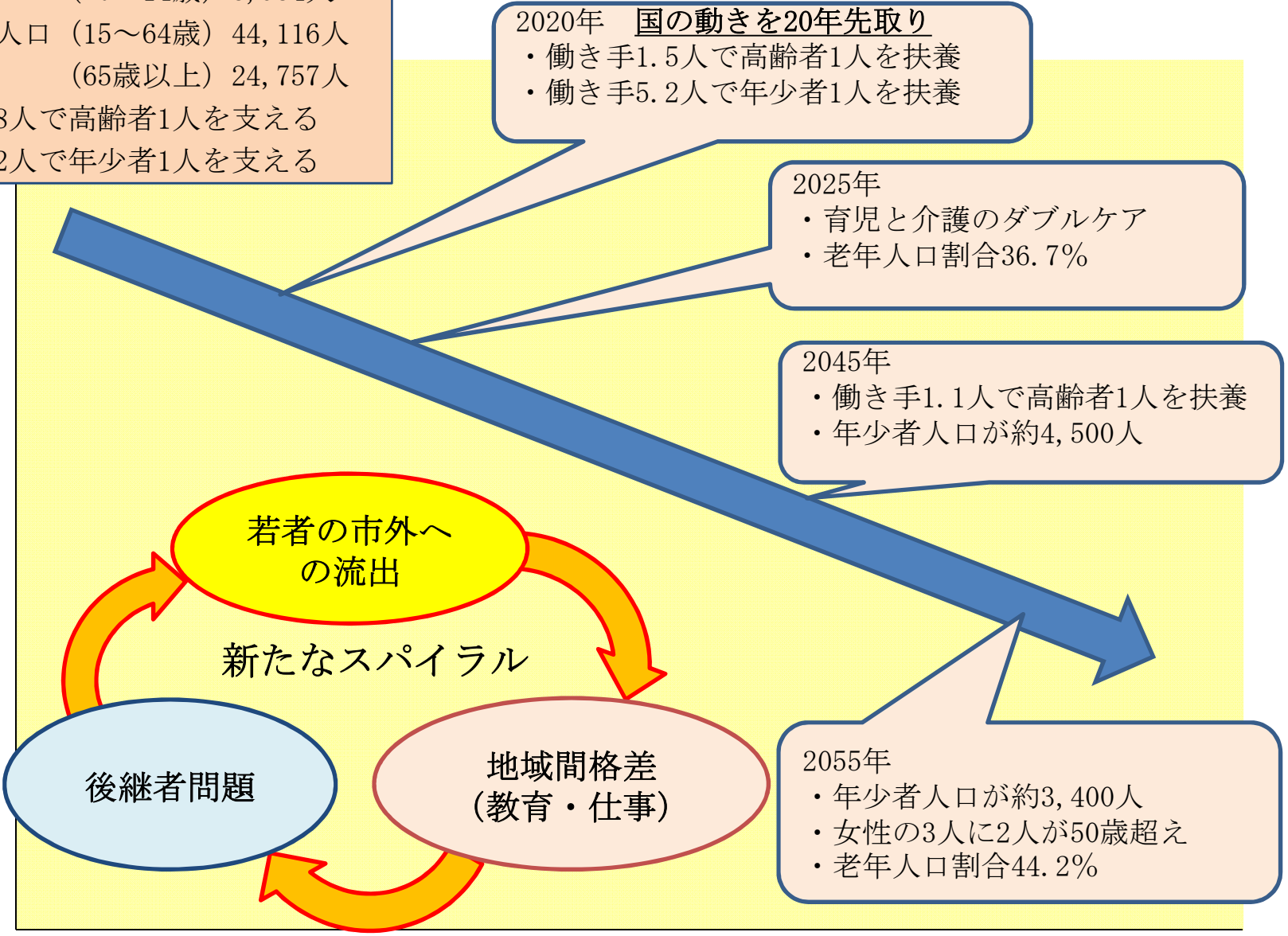
# 人口減少が進む中で考えられる未来予測（三木市イメージ）

(参考) 平成27 (2015) 年 79,725人  
 年少人口 (0~14歳) 8,934人  
 生産年齢人口 (15~64歳) 44,116人  
 老年人口 (65歳以上) 24,757人  
 ・働き手1.8人で高齢者1人を支える  
 ・働き手5.2人で年少者1人を支える

8万人

6万人

4万人

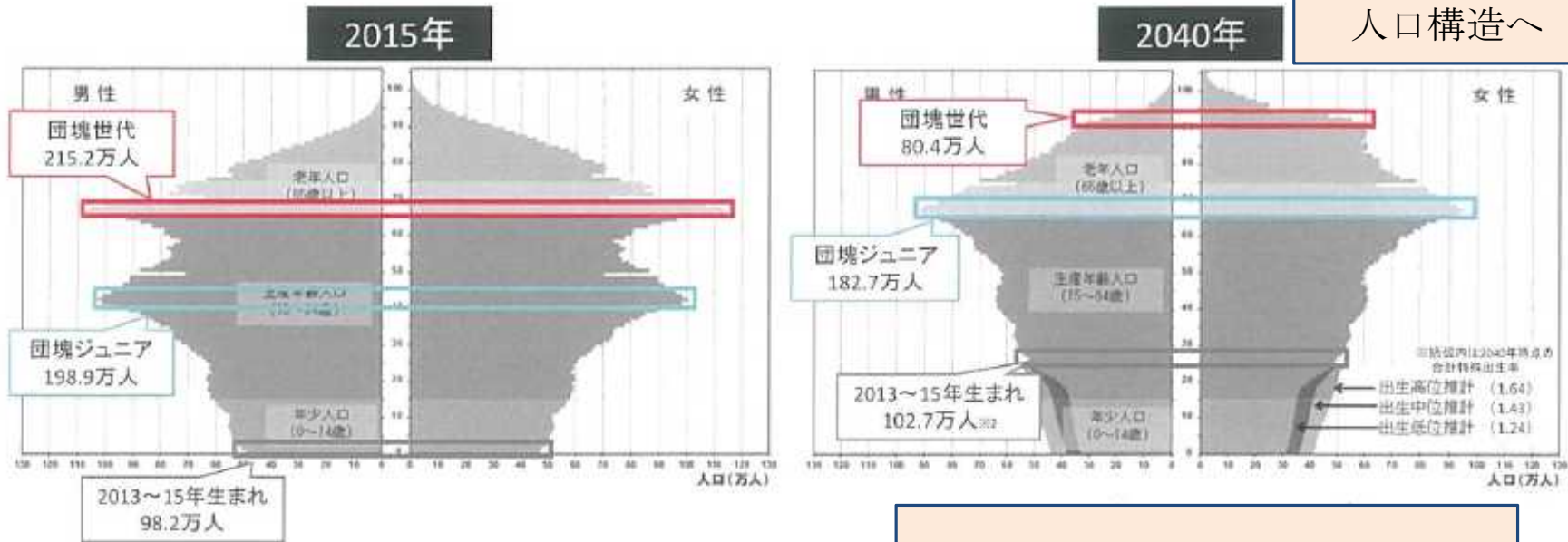


2015年 2020年 2030年 2040年 2050年 2060年



## 2040年に向けた人口の動向について

棺桶型の  
人口構造へ



|                       | 出生数                 | 2015年 <sup>※1</sup> | 2040年 <sup>※1</sup>             |
|-----------------------|---------------------|---------------------|---------------------------------|
| 団塊の世代<br>1947~49年生まれ  | 267.9万人<br>~269.7万人 | 215.2万人<br>66~68歳   | 80.4万人<br>91~93歳                |
| 団塊ジュニア<br>1971~74年生まれ | 200.1万人<br>~209.2万人 | 198.9万人<br>41~44歳   | 182.7万人<br>66~69歳               |
| 【参考】<br>2013~15年生まれ   | 100.4万人<br>~103.0万人 | 98.2万人<br>0~2歳      | 102.7万人 <sup>※2</sup><br>25~27歳 |

人口構造のいびつ化に伴い  
需要と供給のバランスが崩れる。

※1 2015年、2040年の各世代人口は各年齢の平均を記載。

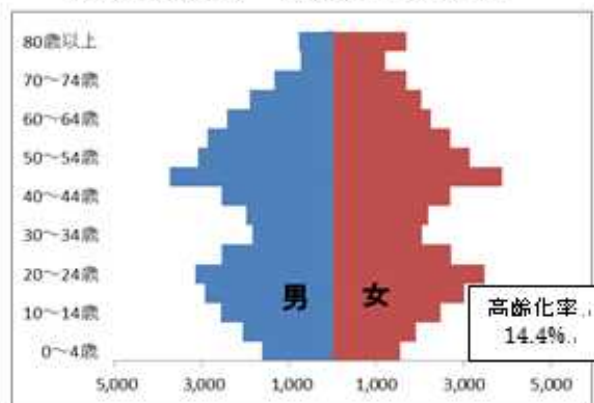
※2 日本の将来推計人口は、国籍に関わらず日本に在在する総人口を推計の対象としており、国際人口移動率(数)を仮定して推計を実施している。

出典 出生数は厚生労働省「人口動態統計調査」から作成。  
2015年、2040年人口は「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)から作成

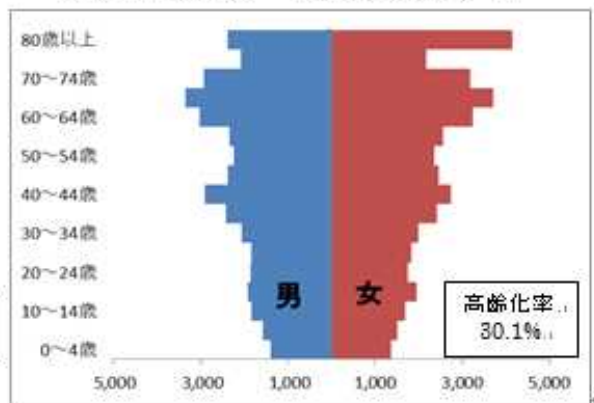
# 三木市の人口ピラミッド推計値

三木市の人口ピラミッドは、国よりも20年進んだ状況になっています。  
 加えて、人口減少のスピードに伴い、非常にスリムな人口構造になると推測されています。

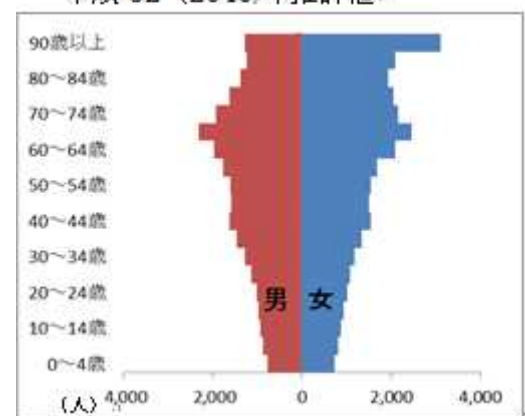
平成9(1997)年人口ピラミッド



平成27(2015)年人口ピラミッド



平成52(2040)年推計値



## 年齢区分別人口比率の比較

|   | 区分             | 平成9(1997)年 | 平成27(2015)年 |
|---|----------------|------------|-------------|
| 男 | 年少人口(0~14歳)    | 16.4%      | ▲3.9%       |
|   | 生産年齢人口(15~64歳) | 71.2%      | ▲11.6%      |
|   | 老年人口(65歳以上)    | 12.4%      | +15.5%      |
| 女 | 年少人口(0~14歳)    | 14.6%      | ▲3.5%       |
|   | 生産年齢人口(15~64歳) | 69.1%      | ▲12.4%      |
|   | 老年人口(65歳以上)    | 16.3%      | +15.9%      |